

顧客本位の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）がよくわかる講座

金融財政事情研究会

序章	「顧客本位の業務運営」の確保に向けて はじめに-金融・資本市場の入り口として-/ 「顧客本位の業務運営に関する原則」の策定と改定等の経緯/原則の内容/ 最善利益勘案義務/おわりに
第1章	「顧客本位の業務運営」（フィデューシャリー・デューティー）とは何か 理念/金融構造改革と成長戦略/金融行政の革新/ フィデューシャリー・デューティーの長く広い射程/金融庁の進めるさらなる革新/新しい誠実公正義務
第2章	「顧客本位の業務運営に関する原則」の構造と意義 フィデューシャリー・デューティーが目指すもの/金融庁の施策としてのフィデューシャリー・デューティー/ 信託の理論としてのフィデューシャリー・デューティー/原則の概要/ 「コーポレートガバナンス・コード」と「スチュワードシップ・コード」の関係/ プリンシプルベースとルールベースの違い/利益相反の回避/顧客評価の反映/海外事情
第3章	法令・ガイドライン等の基礎知識 金融商品取引法/金融サービス提供法/消費者契約法/景品表示法/高齢顧客ガイドライン/ 障害者差別解消法/金融ADR

第4章	金融商品等の基礎知識 保険/債券/株式/投資信託/デリバティブ/ポートフォリオ/リスク
第5章	販売・製造責任としての顧客本位の業務運営 「顧客本位の業務運営」に対して、金融機関が注意すべき点/ 取扱商品の選定プロセスと考慮すべき点/コンサルティングとしてどのようなサービスが必要か/ パッシブ運用とアクティブ運用、ETF/ 顧客の属性、投資目的等につき、どのような方法と頻度で確認するか/ 不利益情報の開示と商品内容のわかりやすい説明/ラップ口座の留意点/ NISAやiDeCoを推進するうえでの注意点/顧客へのフォローアップ態勢と、社内教育・監視体制/ 利益相反の管理/金融グループにおけるガバナンス態勢の合理性/ 製造責任としての顧客本位の業務運営
資料	顧客本位の業務運営に関する原則 アセットオーナー・プリンシプル 重要情報シート（例）

（注）項目については変更することがあります。

ねらいと特色

- 投資信託や年金等の金融商品の販売、NISAの活用等について、金融庁が求めている「顧客本意の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）」とは何か、それを踏まえた販売・運用体制の具体的あり方について解説

期間 ● 2ヶ月 添削 ● 2回

受講料（税込）

紙添削（郵送） ● 8,910円
Web添削 ● 8,690円